参考資料２

技能検定の社会的便益に係る調査方法等について

１　アンケート配布数及び回収状況

（1）配布先の選定

技能検定の社会的便益に係るアンケート調査は、都道府県方式で実施している技能検定職種（全 125 職種）の協力団体（主として技能検定試験問題の作成に協力いただいている団体。以下「協力団体」という。）に対して、調査票（別添参照）を配布することにより実施した。

なお、作業を効率的に進めるため、配布先は以下の方針により絞り込みを行った。

ア　複数の職種に関与する協力団体への調査数の上限は、3 職種とする。

イ　複数の協力団体がある職種への調査数の上限は、5 団体とする。

ウ　協力団体との間で職種廃止への合意を既に取り付けているスレート施工、漆器製造、ファインセラミックス製品製造の 3 職種は、今回の調査対象とはしない。

↓

上記方針により、122 職種 262 団体に対して調査票を配布

（2）調査票の回収

平成 21 年 10 月 28 日までに 118 職種 175 団体（回収率 67%）から回答を得た。

なお、築炉、テクニカルイラストレーション、舞台機構調整及び化学分析の４職種については、回答が得られなかった。

２　回答の集計方針

回収したアンケート調査票は、以下の考え方に基づいて点数化の上、集計を行った。

（1）個別の回答に対し、以下の配点を行う。

ア　回答肢がABCDEの 5 項目である設問　：　A=5 点、B=4 点、C=3 点、D=2 点、E=1 点

イ　回答肢がABの 2 項目である設問　：　A=5 点、B=1 点

ウ　回答が空欄である設問　：　計算からは除外する（ゼロ扱いはしない）

（2）同一の職種に複数団体から回答を得た場合は、その平均値をもって当該職種の点数とする。

（3）問 1 の得点に対し、問 3 の回答を踏まえた補正を行う。

ア　設問ごとに、カテゴリ別の平均値と標準偏差（σ）を算出する。

イ　問 3 の点数がカテゴリ別の「平均値－2σ」を下回る場合は 2 点、「平均値－σ」を下回る場合は 1 点を、問 1 の点数から減ずる。

（4）補正後の点数の合計値をもって、カテゴリごとの平均値の 8 割値と比較する。

３　社会的便益 12 項目のウエイト付け評価について

社会的便益の 12 項目の得点を 100 点満点に換算し、ウエイト付けの評価を行った。

別添

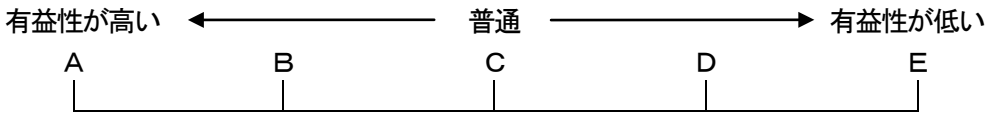
社会的便益に係る調査票（技能検定の全協力団体あて）

団　体　名		電話番号	
ご担当者名		ＦＡＸ番号	

問１～４について、お答えください。

問１　〇〇職種の技能検定（外国人技能実習生向けの基礎２級等の試験は除く。以下同じ。）に関し、次の９項目について、その有益性の程度を以下の採点基準（記号 A～E）の中から当てはまるものについて採点表の評価欄へご記入をお願いします。
（技能検定の等級によって回答が異なる場合は、1 級について回答の上、他の級については問２に記入して下さい。）

＜採点基準＞



＜採点表＞

項目		評価
業界にとっての便益	①　業界における円滑な技能継承のため	
	②　業界において、一定水準の品質を持つ製品を安定に供給するため（製品の製造過程で必要とされる部品、材料、原型、サービスなどの供給を含める。）	
	③　業界内の統一的な技能評価のため	
企業にとっての便益	④　企業の能力開発計画における目標設定のため	
	⑤　企業内における社員教育のため	
	⑥　企業の若手技能者の確保・定着のため	
受検者にとっての便益	⑦　技能士現場常駐制度や他資格の受験資格付与などの技能士優遇措置のため	
	⑧　受検者が技能者としての自信を形成するため （例：自分の技能を磨くため　など）	
	⑨　受検者が技能者としてのキャリア形成の一環に利用するため （例：転職に役立てる、昇級の目標設定にする　など）	

問２　〇〇職種に関し、上記項目以外に、技能検定の有益性の高い事項がありましたら、ご記入ください。

問３　〇〇職種の技能検定について、Ａ～Ｅのうち当てはまるものに〇をつけて下さい。

⑴ 貴団体の会員企業において、技能継承に技能検定はどの程度活用されていますか。

ほぼ全ての企業で活用している	７～８割の企業で活用している	４～６割の企業で活用している	２～３割の企業で活用している	活用している企業はほぼない
Ａ	Ｂ	Ｃ	Ｄ	Ｅ

⑵ 貴団体の会員企業において、一定水準の品質を持つ製品を安定に供給するために、技能検定はどの程度利用されていますか。（製品の製造過程で必要とされる部品、材料、原型などの供給を含める。）

ほぼ全ての企業で利用している	７～８割の企業で利用している	４～６割の企業で利用している	２～３割の企業で利用している	利用している企業はほぼない
Ａ	Ｂ	Ｃ	Ｄ	Ｅ

⑶ 貴団体の会員企業において、業界内の統一的な技能評価として、技能検定はどの程度関係していますか。

全国規模の技能評価に関係している。	グループ企業の技能評価に関係している
Ａ	Ｂ

⑷ 貴団体の会員企業において、企業の能力開発計画における目標設定として、技能検定はどの程度利用されていますか。

ほぼ全ての企業で利用している	７～８割の企業で利用している	４～６割の企業で利用している	２～３割の企業で利用している	利用している企業はほぼない
Ａ	Ｂ	Ｃ	Ｄ	Ｅ

⑸ 貴団体の会員企業において、企業内における社員教育に、技能検定はどの程度利用されていますか。

ほぼ全ての企業で利用している	７～８割の企業で利用している	４～６割の企業で利用している	２～３割の企業で利用している	利用している企業はほぼない
Ａ	Ｂ	Ｃ	Ｄ	Ｅ

⑹ 貴団体の会員企業において、企業の若手技能者の確保・定着の手段として、技能検定はどの程度利用されていますか。

ほぼ全ての企業で利用している	７～８割の企業で利用している	４～６割の企業で利用している	２～３割の企業で利用している	利用している企業はほぼない
Ａ	Ｂ	Ｃ	Ｄ	Ｅ

⑺ 技能士現場常駐制度や他資格の受験資格付与などの公的な技能士優遇措置はありますか。

優遇措置がある	優遇措置は特にない
Ａ	Ｂ

⑻ 貴団体の会員企業において、技能検定合格者に対して、手当・賞与、昇級などの処遇における優遇措置はどの程度設定されていますか。

ほぼ全ての企業にある	７～８割の企業にある	４～６割の企業にある	２～３割の企業にある	該当する企業はほぼない
Ａ	Ｂ	Ｃ	Ｄ	Ｅ

⑼ 貴団体の会員企業に所属する労働者のうち、技能検定合格の資格をお持ちの方はどの程度を占めていますか。

ほぼ全ての労働者が保有している	7～8割の労働者が保有している	4～6割の労働者が保有している	2～3割の労働者が保有している	ほとんどの労働者が保有していない
A	B	C	D	E

⑽ 貴団体の会員企業に所属する労働者で、技能検定を受検されている方のうち、「自発的」に受検された方はどの程度を占めていますか。

ほぼ全ての受検者	7～8割の受検者	4～6割の受検者	2～3割の受検者	ほとんどいない
A	B	C	D	E

⑾ 貴団体の会員企業において、社内での昇級の指標として技能検定合格の資格はどの程度利用されていますか。

ほぼ全ての企業で利用している	7～8割の企業で利用している	4～6割の企業で利用している	2～3割の企業で利用している	利用している企業はほぼない
A	B	C	D	E

⑿ 貴団体の会員企業において、熟練技能労働者の転職者の採用に、技能検定合格の資格はどの程度考慮されていますか。

ほぼ全ての企業で考慮している	7～8割の企業で考慮している	4～6割の企業で考慮している	2～3割の企業で考慮している	考慮している企業はほぼない
A	B	C	D	E

問4　我が国の安心・安全と安定した発展を確保するための観点から、〇〇職種の技能検定の有効性について当てはまる数字に〇をつけて下さい。

⑴ 消費者・国民の生活にとっての安心や信頼の確保のために、技能検定はどの程度有効と思われますか。

非常に有効である	ある程度有効である	どちらでもない	あまり有効でない	有効でない
A	B	C	D	E

⑵ 国の伝統産業の振興の将来性について、技能検定が存在することは、どの程度有効と思われますか。

非常に有効である	ある程度有効である	どちらでもない	あまり有効でない	有効でない
A	B	C	D	E

⑶ 国の将来的な国際競争力・技術レベルの維持のために、技能検定が存在することはどの程度有効と思われますか。

非常に有効である	ある程度有効である	どちらでもない	あまり有効でない	有効でない
A	B	C	D	E

ご協力ありがとうございました。